

ふくいの生協カ

福井県生活協同組合連合会

〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生活本部センター内)
TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2015年8月7日 No.108

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索

GENERAL MEETING 県連総会 6月4日(木)



福井県教育センター 4階大ホールにおいて第40回福井県生活協同組合連合会通常総会を開催しました。



当時は、福井県安全環境部企画幹 長谷川治男氏にご来賓として出席いただきご祝辞をいただきました。野尻郁智副会長理事の開会宣言に続き、理事会を代表して竹生正人会長理事が挨拶し、以下の全議案が可決決定されました。

可決決定された議案

- 第1号議案 2014年度活動報告・決算報告及び
剰余金処分案承認の件
- 第2号議案 2015年度活動方針及び収支予算決定の件
- 第3号議案 役員(理事9名、監事2名)選任の件

なお、本総会の終結をもって理事及び監事全員が任期満了となりました。今年度の役員体制は下記の通りです。今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげ、ご報告とさせていただきます。

新役員紹介(敬称略) 理事9名 監事2名

会長理事 竹生正人 (福井県民生協理事長)	理 事 後本康裕 (福井県労済生協専務理事)
副会長理事 山内利鞠 (福井県学生協常務理事)	理 事 黒崎文夫 (福井県学校生協専務理事)
副会長理事 野尻郁智 (福井大学生協専務理事)	理 事 梅津良一 (音浜生協理事長)
専務理事 横尾智恵子 (福井県民生協地域NW支援次長)	監 事 浜野健治 (音浜生協代表監事)
理 事 田中光顕 (福井県医療生協専務理事)	監 事 野田晋三 (福井県学校生協統括部長)

福井県生協連創立40周年記念事業「消費者教育フォーラム」開催報告

消費者教育フォーラム『みんなでつくり、動かそう 消費者市民社会』

日 時 7月4日(土) 場 所 福井県国際交流会館



①講演「消費者市民社会って、どんな社会?」

阿南 久 氏(前消費者庁長官・日本生協連消費者活動アドバイザー)



▲日本生協連消費者活動アドバイザー阿南氏講演

▲パネルディスカッション

②パネルディスカッション

『消費者市民社会をつくる教育や地域の取り組み』

■実践報告

- ①中学校教諭 福岡知子 氏「食品の選択」
- ②高等学校教諭 球倉知美 氏「消費者の視点から身近な品を検証する」
- ③公益社団法人ふくい・くらしの研究所 事務局長 高井健史 氏「地域でのくらしの講座」
- ④消費者教育推進会議委員(福井弁護士会消費者問題対策委員会元委員長) 島田 広 氏「全国の消費者教育の動き」

■パネルディスカッション

- ・コーディネーター…荒井紀子 氏
(福井大学 教育地域科学部特命教授)
- ・コメンテーター…阿南 久 氏
(前消費者庁長官・日本生協連消費者活動アドバイザー)
- ・パネリスト…実践報告者

福井県生協連創立40周年記念事業として「消費者教育フォーラム」を開催しました。

各生協職員・役員・組合員さんをはじめ、学校関係者、県・市町の消費者行政関係者、消費者団体、北陸農政局、一般県民など、いろいろお立場の方144名にご参集いただき、「消費者市民社会を、みんなでつくり動かそう」ということがどういうことなのかを考え、皆さんと思いを共有することができました。

今回のフォーラムを、消費者市民社会構築への第一歩として、地域のさまざまな団体とのつながりを広げていきながら、活動をすすめていきます。

2015年 会員生協総(代)会議案書 ダイジェスト

A bill book digest of consumers' cooperative
▼ BILL BOOK DIGEST OF CONSUMERS' COOPERATIVE

第37回 通常総代会

2015年6月18日(木) 10:00～
県民せいきょう本部センター

2020年ビジョン、第9次中期計画スタート

第37回通常総代会が開催され「中期計画」「役員選任」議案を含め6つの議案とも圧倒的賛成多数で全議案が可決承認されました。

竹生理事長より、消費増税で暮らしが厳しくなるなか、組合員の利用結集で過去最高の事業高となったことの報告とお礼、2015年度スタートする第9次中期計画では、生涯に渡ってお役立ちできる生協をめざし健康長寿で安全・安心な福井づくりに貢献することの挨拶を行いました。当日来賓を代表して、杉本福井県副知事、東村福井市長よりご挨拶をいただきました。

福井県労済生協の総代会は、7月30日に開催されました。次号に掲載します。

第38回 通常総代会
2015年6月21日(日)
9:30～
福井県自治労会館
多目的ホール



健康をつくる 平和をつくる
いのち輝く社会をつくる！

福井県医療生協の第38回通常総代会が、6月21日に福井県自治労会館多目的ホールにおいて開催され、「2014年度活動のまとめと事業報告及び決算」をはじめとするすべての議案を探査しました。

福井県医療生協は、この一年間、健康で明るいまちづくり・くらしの助け合い・支え合いを広げるたまり場づくりをすすめてきました。また、組織強化・地域包括ケアへの対応に取り組み、機関紙「けんこう」をひとり一人の組合員をつなぐ「わ」と位置付けつながりを強めました。さらに、東日本大震災支援・原発ゼロをめざすとりくみをひろげてきました。

昨年4月より開始した「無料低額診療事業」は困難を抱える多くの方からお金の心配なく受診できると喜ばれています。「健康チェック」は123回、1810人の方が参加され、みなさんの健康不安に寄り添ってきました。

「戦争法案」が国会で審議され憲法・平和をめぐる情勢は緊迫しています。憲法を守り活かすため、弁護士を講師に憲法の学習講演会にもとりくみました。



第58回 通常総代会

2015年6月20日(土)
13:30～
(一財)福井県教育センター
4階 大ホール



第58回通常総代会を開催しました

去る平成27年6月20日(土)午後1時30分より、(一財)福井県教育センター4階 大ホールにて、第58回通常総代会が開催され、当社は、お忙しい中各支部より総代定数120名に対し、本人出席69名、書面議決書36名、委任状5名の合計110名の総代の方にご出席をいただき、次の5つの議案が承認されました。

第1号議案 平成26年度事業報告及び決算関係書類承認の件

第2号議案 平成27年度事業計画及び予算決定に関する件

第3号議案 定款一部改正の件

第4号議案 役員(理事13名、監事2名)選任の件

第5号議案 役員報酬決定の件

総代、役員の皆様には、休日にもかかわらず多数ご出席いただきまして誠にありがとうございました。

総代会にてご承認いただきました「平成27年度基本方針と事業計画」に基づき事業を遂行いたします。

また、「学校生協第17次中期3ヶ年計画(最終年度)」に基づき、特に供給高の減少に歯止めをかけ、「利用される学校生協」、「求められる学校生協」、「頑のみえる学校生協」を目指し、組合員のための福利厚生事業に邁進してまいります。



第58回 通常総代会

2015年6月24日(水) 13:30～
(一財)福井県教育センター
4階 大ホール



2期連続の黒字決算

第58回通常総代会は、6月24日(水)福井県教育センターにおいて開催されました。

小川理事長の開会挨拶の後、福井県生協連合会竹生会長からのご祝辞をいただき、福井臨海工業用水道管理事務所総代の酒井氏を議長に選任し、各議案について審議を行いました。

2014年度は、県職員等への福利厚生を担う活動の中、組合員の職場生活を支え、利便性の向上にお役立ちできる事業展開を行ってきました。しかし、消費税増税や職場環境の変化、公用品の受注減少など大変厳しい年になりました。

このような状況の中でも、品揃えの工夫や店舗商品の鮮度向上を図りながら仕入れ業務を見直しました。また、ハウジング事業も大変好調で、9棟の新築受注など、善戦しました。供給剩余は昨年度より270万円余、最終的な経常剩余は111万円余となり、2期連続で黒字決算を迎えることが出来ました。

2015年度事業計画については、まだまだ厳しさが続くと予想される中、それぞれの部門の見直し強化を図り役職員一丸となりながら、黒字決算となるよう事業内容の抜本的見直しをすすめ、組合員のお役に立てる生協の存在をめざします。



第45回 通常総会

2015年2月11日(水)
10:00～
菅浜農業構造改善センター



地域に根付く身近な生協へ

2015年2月11日(水)第45回通常総会が開かれ、全ての議案が原案どおり可決されました。今回は、当日の理事選挙で新しく2名(竹本繁夫氏、武田道夫氏)の理事が選出されました。

昨年度は光熱費の削減や店舗の効率的な運営を目指すため、新装開店を行いましたが、原子力発電所の運転問題等が大きく響き、売り上げが伸びず減収となっていました。

今年度の活動方針としまして、黒字決算を目指し、販売というものの原点に返り、菅浜組合員への積極的な宣伝による販売促進や配達業務の拡大を重点的に行い、「親しみやすい生協」、「わかりやすい生協」が地域に根付くよう、邁進してまいります。

また、恒例である「生協祭」「すかまフェスタ」「千灯まつり」の出店等も盛大に行っていきます。



第61回 通常総代会

2015年5月26日(火)
18:20～
福井大学教育系1号館



3期ぶりの黒字決算を報告いたしました

5月26日(火)に福井大学教育系1号館にて第61回の通常総代会を実施しました。当日は総代定数110名に対し、本人出席58名、書面出席40名、合計98名の総代にご参加いただきました。

14年度の事業活動では組合員の暮らしをより豊かにする活動、組合員を支援する事業、食堂や店舗の利用環境の改善を掲げ、諸活動を実施してきました。施設総合改修の実施により赤字決算が続いていましたが、組合員の皆様の利用伸長もあり3期ぶりの黒字に決算することができ、総代の皆様に事業報告をさせていただきました。

15年度は懸念であった松岡キャンパスの施設総合改修実施にむけて検討をすすめていくこと、組合員にとって身近な店舗・食堂づくり、たすけあい制度の推進、新学期事業活動の推進などを提案し、ご承認いただきました。

第2次中期計画の最終年でもあり、諸計画の実施や次期中期計画に向けた検討も併せて進めていきます。



地区推進委員会 開催されました。

全6地区において地区推進委員会が開催され、2014年度の活動報告と2015年度の活動計画について確認がされました。

<2015年度 事業推進活動の基本的視点>

1. 住まいの共済(新火災共済・新自然災害共済)の浸透と拡大をめざした提案と取組み
2. 新離退職者団体生命共済の活用を踏まえた団体生命共済の継続的取組み
3. 対面推進チャネルでの積極的な商品提案による共済利用の深耕と拡大
4. 共済代理店チャネルにおける推進強化の取組み

地区推進委員会 開催日時

地 区 名	開 催 日 時
福井北地区推進委員会	6月5日(金) 18:00～
福井南地区推進委員会	6月4日(木) 18:15～
坂井地区推進委員会	6月17日(水) 18:00～
丹南地区推進委員会	6月9日(火) 18:30～
奥越地区推進委員会	6月16日(火) 18:00～
嶺南地区推進委員会	6月10日(水) 18:30～

3.11 を忘れない

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

宮城県では震災で1,087人の子どもが親を亡くしました。両親をなくした「孤児」は136人、父または母をなくした「遺児」は951人。多くの子どもたちが将来も続いたであろう親の庇護を失ったことになります。

宮城県は震災直後から避難所を訪問して保護を要する子どもたちの実態把握を行い、2014年(平成24年)3月から全国・全世界からの寄付金をもとに「東日本大震災みやぎこども育英基金支援金・奨学金」制度を立ち上げ、未就学児から大学生まで希望のあった1,048人に対し、金銭的支援を始めました。

孤児のうち134人は祖父母や叔父・叔母などのもとに身を寄せ、2人が児童福祉施設に入所しました。また、里親制度を利用している親族には上記の支援金・奨学金のほかに国から生活費や教育費の支給があります。また孤児・遺児ともに民間の奨学金も併用できるので、経済的なバックアップの用意はある程度整っていると言えそうです。

里親家庭には児童相談所員が定期訪問し、子どもの様子を聞いたり、接し方などについてアドバイスを行なっているほか、心のケアにも子ども総合センターやスクールカウンセラーなどさまざまな機関と連携して取り組んでいます。

しかし、そうした子どもを見守る方々は、保護者の精神の不

～被災地のいま～

震災孤児・遺児を支える眼と手

安定が子どもに投影されている、幼児だった子が4年経って体験を喋るようになりPTSDを発症するかも知れないなどの懸念を持っています。20年前の阪神・淡路大震災の際も、これらの問題は4年目にピークを迎えた、という状況があるからです。

問題はそれだけではありません。宮城県保健福祉部子育て支援課の吉岡弘さんは「保護者は高齢の方が多いので、いつまで養育できるか」と心配を口にします。さらに懸念しているのが虐待の増加です。県は強い危機感を持って防止に取り組んでおり、「児童相談所全国共通ダイヤル”189(いちはやく)”を周知し、連絡を受けたらすぐに動ける体制づくりを進める」と話します。

2011年3月11日午後2時46分を境に人生が大きく変わってしまった孤児・遺児を見守り、支える取り組みが、懸命に続けられています。

※人数等はすべて2015年3月31日現在のデータ(宮城県)



▲「親と暮らすことのできない子どもの受け皿として里親制度の充実に力を入れていきたい」と吉岡さん(宮城県保健福祉部子育て支援課子ども育成班主幹)。

いきいき消費者フォーラム in 2015

東日本大震災で被災された方の手作り商品を販売

5月30日(土)に福井市のオッサで開催された「いきいき消費者フォーラムin2015」(消費者総合フォーラム交流展実行委員会主催)で、福井県生協連合会は他の協同組合とともに物品販売を担当しました。今回も東日本大震災で被災された方々の手作り商品と花ポットを販売し、売上金を東日本大震災復興支援として募金しました。

また、講演会では、消費生活アドバイザーでありフードジャーナリストでもある向笠千恵子氏が「和食のふるさと、福井は海山里の幸の宝庫～ゆたかな暮らしのために～」をテーマに、生産者、おいしさ、民俗、歴史、器などを多面的にとらえながら、恵まれた立地である「福井の食」についてのお話をされました。和食の原点ともいえる「福井の食」を通じて、日本の食文化を見つめる機会となりました。



Let's clean the coast!

第19回 海岸クリーンアップ 参加者募集

① 9月5日(土)
9:00~10:00
鷹巣海水浴場

② 9月12日(土)
9:00~10:00
三国サンセットビーチ

※いずれも活動は9時から1時間程度です。海岸清掃終了後は、みんなでゴミを分別し、集積します。

※悪天候により事前に中止する場合があります。その際は連絡いたしますので、申し込み時に連絡先(電話番号)をお聞きます。

※持ち物:ゴミ袋は事務局で用意します。軍手や汗拭きタオル・火はさみなどは各自ご用意ください。

お申込み・お問い合わせは

協賛:福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会(Fバネット)

7月13日(月) 福井県立大学で出前講義

『食の安全とくらしの安心で、地域へのお役立ち』テーマに

福井県立大学経済学部 北川太一教授の講義のゲストティーチャーとして招かれて実施している福井県立大学の学生を対象にした出前講義(90分)も、国際協同組合年(2012年)から数えて4年目となりました。

「協同組合って?」「生協って?」の基本知識をおさえた後、生協が組合員のくらしだけでなく地域や社会、地球環境をよりよくするために地域や職場、学校などで事業・活動していることを、パワーポイントで具体的な事例を示しながら話をすすめました。

後半は、福井大学生協 野尻専務理事より「大学生協って?」をテーマに、福井大学生協で行っている事業や様々な活動・取り組みを紹介し、「学生の皆さんのが生協をつくりたい」と仲間を集めて行動することが第一です。設立までハードルはありますが、全面的にサポートします。」とエールを送りました。



▲福井大学生協 野尻専務理事による講義